

『秘密の花園』～本から生まれた三つの映画と映画から生まれた本

川端 有子

フランシス・ホジソン・バーネット (Frances Hodgson Burnett, 1849-1924)

『秘密の花園』(*The Secret Garden*, 1911)

孤児のメアリといとこのコリンが庭を再生していく過程で、自らも健康と幸せを取り戻してゆく物語。

高い評価

- ① 自然の再生力、庭の癒しの力を描いて、放任された子どもたちが自分で自分を育ててゆく過程が、季節の推移とともに描かれている。
- ② 子どもたちの成長に不可欠な、「秘密の場所」をうまく設定している。
- ③ 親に見放された二人の子どもたちが親の愛を取り戻す、ウェル・メイドな物語。
- ④ 風景や植物、動物の描写が生き生きとしている。

よく指摘される大きな問題点

- ① 最初はメアリが主人公であるのに、中途から彼女の影が薄くなり、最後のシーンではどうなったのか、まったく書かれていない。
- ② みっともなく意固地で型破りに行動的なメアリというヒロインが、結局はおとなしく従順な可愛い女の子になってしまう。
- ③ 植民地であったインドを、明らかにイギリスより劣った国としており、ステレオタイプな描かれ方である。
- ④ 花園の癒しと再生力だけで十分なのに、そこに「魔法」という余計な概念を付け加えている。
- ⑤ ディッコンやマーサ、スーザンなど貧しい労働者階級の人々が、非常に理想化され、自然に近い生活を営む存在として美化されている。
- ⑥ コリン、ディッコン、メアリという 3 人の間には、将来三角関係が生じないのか、という疑念が残る (もっとも当時としては労働者階級のディッコンと地主屋敷の親戚であるメアリとの結びつきはあり得ない)。

映画化について

1919 年 Famous Players-Lasky Corporation によるサイレント映画

メアリ役は 17 歳のライラ・リー、ディッコン役はポール・ウィリス。
このフィルムは残っていない。

1949 年 MGM による白黒映画。ただし、最後のシーンのみテクニカラー使用。

メアリ役はマーガレット・オブライエン、コリン役はディーン・ストックウ

エルズ、ディッココン役はブライアン・ローパー。

1952、1960、1975 年 BBC でテレビシリーズが放映される。

1987 年 Hallmark of Fame による TV 映画

メアリ役はジーン・ジェイムズ、コリン役はジェイドリアン・スティール、ディッココン役はバレット・オリバー。大人になったコリンにコリン・ファース。

1993 年 American Zoetrope による映画。アニエスカ・ホランド監督。

メアリ役はケイト・メイバリー、コリン役はヘイドン・プローズ、ディッココン役はアンドリュー・ノット、メドロック夫人役はマギー・スミス。

その他のメディア化

1991-1992 年 日本、NHK テレビ『アニメ・秘密の花園』39 回シリーズ。スペイン語、イタリア語、タガログ語、ポーランド語にも翻訳。なぜか英語版がない。

1991 年 ブロードウェイ・ミュージカル版 ルーシー・サイモン作曲、マーシャ・ノーマン作詞、トニー賞 7 部門で賞を獲得。

2013 年 オペラ化、ノーラン・ゲイザー作曲、サンフランシスコ・オペラ

派生作品 ノエル・ストレットフィールド『映画に出た女の子』(*The Painted Garden / The Movie Shoes*, 1949) メアリ役をやることになった女の子を主人公にしたイギリスの児童文学。

小説+映画 *Return to the Secret Garden*, 2000 (詳細不明)

映画 *Back to the Secret Garden*, 2001 (1987 年の続編)

取り上げるのは、原作、1949 年 (米)、1987 年 (英)、1993 年 (英) の 3 本の映画と、1949 年の映画が生んだ『映画に出た女の子』。

映画化により、種々の問題点は解決できたか、新たにあぶりだされたことは何か。映画化の過程自体を小説化したストレットフィールドがとらえたものは何か、を考えてみたい。

I 3 本の映画それぞれの特徴

II メアリの生まれたインドの取り扱い

III 登場人物+コマドリのとらえ方

IV 映画化に当たってプラスされたもの

V 映画化に当たって省略されたもの

VI 3 本の映画における結末の処理の仕方

VII 『映画に出た女の子』が示すもの

結語 ~ 映画から本から映画 ~

場面等	1949 年白黒映画 (米)	1987 年 TV 映画 (英)	1993 年カラー映画 (米)
		赤十字の車に乗った黒い軍服の若い女性、緑の木立を抜けて城へ、庭の鍵を探すが、隠し場所になくて、木にもたれかかって追憶にふける。	
メアリの両親の死因	インドのコレラ (両親は写真のみ登場)。誰もいない屋敷を調べに来た二人の兵隊が人形に囲まれたメアリを発見。	インドのコレラ (死ぬ場面あり)。華やかなパーティの真最中にバタバタと人が死んでいく。火事の中、泣きながら連れ出されるメアリ。人形を落とし、それが燃えてしまう。	インドの大地震+火事 (両親は写真のみ登場)。メアリの語りで始まり、孤独で砂に花を挿していた様子、インドの音楽やお祭り、赤々とした夕日。タジマハールなど描かれる。召使にイギリス風のドレスを着せられている人形のようなメアリ。
船でイギリスに	クレイヴン氏はせむし。からかわれ、大喧嘩。メドロック夫人に unattractive と言われる。	付き添って旅してきたクロフォード夫人からメドロック夫人に。食べもしゃべりもしないメアリ。母のネグレクトが暗示される。 Difficult child	船の中で子どもたちにいじめられる。雨降りのリバプール。最後にメドロック夫人登場。不器量な子ね、と言われる。ほとんど白黒画面。
ヨークシャーへの旅	馬車の中、寝ているメドロック、雨のムア、暗い館、廊下に泣き声。	汽車と馬車で行く。インドが好き、ムアは嫌いという無表情なメアリ。城に入り、圧倒されるメアリ。ちらりとディッコンの姿が見える。夜は風の音で眠れない。	真っ暗な馬車の中、チキンやゆで卵を食べながら、しゃべり続けるメドロック夫人。メアリは無視。白馬にのったディッコンの姿が見える。
マーサとの出会い	ケラケラ笑う田舎娘。メアリは泣きながら枕を投げる。	9 人兄弟とムアの話でメアリの興味を引くマーサ。	メドロックに自分のことは自分でしろと言われるがマーサは世話を焼いてくれる。ただし、くすぐられたりして嫌がる。インド人が来ると思っていたと言われ、かんかんに怒る。
庭に出る	朝食は要らないと出て行ったのは手入れの行き届いた整形庭園。刈込み、模様。	赤い帽子で庭に出て、ベンにあの庭はどこから入のかと聞いて、「つつきまわる	ディッコンの「一人で遊ぶ。」と言われ、赤い帽子で庭に出ていくメアリ。寒々とした冬

		な。」と怒られる。	景色、たき火をしているベン。
秘密の花園	ディッココンが教えてくれる。	マーサに夫人が死んだ場所だと教えられる。	ベンに聞くが 10 年閉鎖されていると言われる。
鍵を見つける	黒いカラスが導く。	コマドリが導く。 激しい風でドアも見つかる。	メアリの部屋に、隠しドアがあり、そこから探検に出かけて、クレイヴン夫人の部屋を見つけ、その引き出しにあった。インドからメアリが持ってきた象牙の象の片割れも見つかる。 扉はコマドリが導いてくれる。
縄跳び	ディッココンがくれる。	マーサがくれる。	マーサがくれる。
ディッココン	田舎者らしい無骨な少年。笛を吹いて動物を慣らす。	目元パッチリの青年。湖のそばでメアリと初めて出会う。	田舎の子らしい白馬に乗った少年。
コリンの発見	黒い巻き毛の幼い子 泣き声を聞いたメアリが走って行って見つける。	ストレート金髪の威張った子。泣き声を聞きつけてメアリが勝手に探しに行く。	目の下にクマのある、いかにも病人っぽい少年。庭にママの姿が見え、置いて行かれる幼い日を夢見て泣いていたメアリ、その泣き声にかぶって聞こえてきた泣き声を探しに行く。
コリンとやり取り	けんかをしつつも閉ざされた庭の話をするメアリ。子守歌を歌って聞かせる。	偉そうに死ぬんだ、というコリン。	わたしたちのママは双子よ、不思議そうに鏡に見入る二人。ママが死んだから悔しい。窓を開けるのを嫌がり、花粉を恐れる。
秘密の花園の様子	荒れてぼうぼう、淀んだ池、壊れたベンチとテーブル。	荒れ果てた庭。私だけの秘密の花園、カギを煉瓦の中に隠す。	枯れ枝ばかりで寒々としているが微笑むメアリ。淀んだ池、彫像、アーチ、枯草の間に緑の芽。ブランコが揺れている。
庭作り	あまり描かれない。	庭から水仙の花を摘んで帰る、春服を着たメアリ。手入れは随分描かれる。	ディッココンを案内して入ると、ディッココンはバラが生きているという。CG も使って詳細に描かれる。根の伸びる様子、次々開く花。ミストレスメアリの歌を歌いながらせっせと花を植える。

コリンとの けんか	ディッコンと外へ行こうとするメアリに枕を投げつけて泣きわめく。メドロック夫人に見つかる。その後も再三癩癩、ヒステリーを起こしてわめく。 秘密の花園の話をして仲直り。	ディッコンに焼きもちを焼いたコリン、メアリが来ないので癩癩を起こし、お互い自分勝手だと言合いけんか。怒鳴りつけた上で、こぶなんかないと確認するメアリ。初めて please といったコリン、メアリと二人で庭の話。	偉そうなコリンにキレたメアリがディッコンに会いに行ってしまう、ヒステリーを起こしたコリン。電気療法や冷水療法で良かれと思ってはいるのだが、コリンを痛めつけているメドロック夫人。メアリがディッコンの方へ行ってしまうので、妬いてヒステリーを起こすコリン。甘やかし過ぎ、と批判するメアリ。こぶのないことを確認。
クレイヴン 氏	夜の間にかっそりコリンを見に来ている。 メアリに会った時もワイングラスを投げ付けて割る神経質な男。	夜の間にかっそりコリンを見に来ている。メアリに「地面くらいいくらでもあげる。」という。	長髪、背中の曲がったロマンティックな男。コリンがあまり母に似ていないので気に入らない。 メアリの方が夫人にそっくり。暖炉の脇、犬のいるところで初めて叔父に会うメアリ。夫人に似ているので驚くクレイヴン氏。「どこでも庭をあげる。」と言ってまた旅に。
コリンの病 因	悪い医者の治療無理強い。	思い込み（原作通り）	思い込み+メドロック夫人の過保護
ディッコン 屋敷へ	カラスが、悪い医者のかつらを外し笑いに。	羊、キツネ、カラス、リスを連れてくる。	
コリンとの 親族関係	原作どおり遠いところ。	なし。	コリンとメアリの母が双子の姉妹同志。
コリン、庭 に入る	突然カラーに。立ち上がるうとするコリン、いつまでも生きるとつぶやく。	コマドリが巣作り。この頃綺麗になったと言われるメアリ、夏服で。走り回るディッコンとメアリをうらやましげに見るコリン。	
ベン その後の庭 での活動	子どもたちを見て怒る。	コリンを見てびっこ、といい、それに怒ったコリンが意地で立ち上がる。バラを植える。長い間歩く練習、大きくなったら魔法の実験を	びっこと言われて怒るコリンは勢いで立つ。すっかり夏景色となりカラフルになる画面。魔法のおかげで歩けるようになったというコリン、

		<p>するという。そこにスーザン来る。</p> <p>コリンはメアりにロケットをプレゼント。</p>	<p>メアりにプロポーズ。</p>
クレイヴン夫人の死因	<p>庭でお茶していた時、木が倒れた事故。</p>	<p>木の枝の上に座っていて、折れて落ちて死んだ（原作通り）。スーザンは産婆だった。</p>	<p>庭のブランコから落ちた。</p>
クレイヴン氏の帰宅の理由	<p>スーザンからの手紙。いい医者がコリンは病気じゃないと断言、氏の死への願望が反映しているだけ、と言われ激昂、ワイングラスを割り、「家屋敷を売ってイタリアへ引っ越す。」と言い、一度帰ることに。</p>	<p>イタリア旅行中、夢の中で庭の中に妻がいるのを見る。キスしているところ。起きるとスーザンから手紙が来る。「もし私があなたなら家に帰ります。」と（原作通り）。</p>	<p>知らせようとコリンとメアリが住所を調べるが分からない。夜の庭でたき火をたき、3人の子どもは呪文を唱え、父が帰るよう祈る。そのころ、旅先で夢を見たクレイヴン氏、庭の中で「アーチャー」と呼ぶ妻、岩山で「リリアス」と答える自分。目覚めてすぐ予定を変え、帰国。</p>
コリン、父の帰還	<p>ディッココンが夫人の死を機に人が変わってしまった氏のことを話し、夫人の肖像画を見てコリンは泣く。</p>		<p>帰ったのに部屋に誰もいない、庭にいると思うとマーサが指摘、氏はメドロックを家政婦失格と叱り、落ち込んだメドロックをマーサがそっと慰める。</p>
最後の場面	<p>カラー画面。クレイヴン氏、子どもたちの声のする庭に入り、コリンは初めて歩いて父の下へ歩きみんな驚く。白い夏服のメアリ、ディッココンと4人が抱き合うところで終わり。屋敷を売る話は破談。</p>	<p>ディッココンは外へ出て、コリンとメアリ、あじさいと罌粟の花、いつまでも友だち？そこにクレイヴン氏入ってきて父の下に歩み寄るコリン、涙の抱擁。3人で庭の中を歩き回る。</p>	<p>抱き合う父子を横目に「私なんかいないんだ」と走り去るメアリ。追いかけて、3人が改めて抱き合う。白い馬に乗ったディッココンが後になり先になり、館に待つ人々のところに3人は帰る。</p>
		<p>はっと我に返る大人になったメアリ、ベンが鍵を返してくれる。ディッココンは戦死したと。ベンが手入れしてしてくれた庭、コリン登場、メアりにプロポーズし、受け入れられる。</p>	

出てこない人	メアリの両親、バジル・クロフォード、クロフォード一家、ローチさん	バジル・クロフォード、ローチさん	メアリの両親、バジル・クロフォード、クロフォード一家、スーザン、ローチさん
出てこない場面	インドで庭を作るメアリ。コリンが庭でバラを植えるシーン。スーザンが持ってきてくれた食料を庭で食べるシーン。うそをついて大人たちを騙すところ。コリンが科学について演説するところ。「魔法」についてのくだり。	インドで庭を作るメアリ。スーザンが持ってきてくれた食料を庭で食べるシーン。うそをついて大人たちを騙すところ。コリンが科学について演説するところ。「魔法」についてのくだり。	コリンが庭でバラを植えるシーン。スーザンが持ってきてくれた食料を庭で食べるシーン。うそをついて大人たちを騙すところ。コリンが科学について演説するところ。「魔法」はクレイヴン氏を呼び戻すため行われる。
特徴	メアリが可愛い。最も単純化。	回想形式になっている。続編がある。	女性監督視点で「母」を強調。

Noel Streatfield (1895-1986) *Movie Shoes*, 1954. (*The Painted Garden*)

ノエル・ストレットフィールド 作 中村妙子 訳 『映画にでた女の子』 すぐ書房 1986
MGM 映画後、ハリウッドに取材して書かれたイギリスの児童文学。

イギリス人の一家が、父の病気の療養のため、カリフォルニアで一冬を過ごす。3人きょうだいの真ん中のジェインは、他の二人と違って特に何の才能もなく、愛想のないあまのじゃくな性格で、動物が好きなので訓練士になりたいと思っている。

ちょうど、BB 映画会社が『秘密の花園』を映画化しようとしており、主役が出られなくなって困っていたところ、「愛想のないところ」「イギリスなまり」「不細工」「暗記は得意」なところを見こまれて、ジェインが代役に抜擢される。ディックン役の少年とは仲良くなるが、コリン役の子役とは最後まで仲良くなれないし、ジェインの演技がうまくなるわけでもない。しかし、きょうだいにコンプレックスを抱く少女ジェインは少しだけ、自信を得る。父親の病気は良くなり、みんなでイギリスに帰る。

この物語の中には、映画と原作の違い、フィクションと現実の違いの問題が見え隠れする。イギリスの気候とアメリカの気候、二つの国の文化を比較して眺めるところなど、『秘密の花園』をベースにしたようなところも散見される。